

ようこそ畠へ

2007

2007年9月25日(火)、9月27日(木)VOL. 14

秋分の日が過ぎました。日が沈むのも早くなってきました。夕方になると気温が急に下がってきます。標高300mにあるファーム伊達家の畠は、皆さんが住む街中よりも早く秋が深まって行きます。雪が降る前にいろいろとやらなければならないことがあります。忙しい秋になりそうです。

話は変わりますが、先日、長男の長男に「お父さん、農業って楽しいかい?」と聞かれました。「うん、楽しいよ。楽なことばかりではないけど、楽しいよ。」と僕。「どんなところが楽しいの?」と長男。「野菜がうまくできて、食べた人が「おいしい」と言ってくれるのが楽しいよ。」と僕。「ふーん、俺も農業やるかな。」と長男。

長男がどんな思いで、こんな話をしたのかはわかりません。僕らも農家になったばかりで軌道に乗せるのに必死で、子供達に将来農家になってほしいなどと考える余裕は全くありません。ただ、30代半ばで仕事を辞めて農家になった僕らに付き合ってもらっている分、子供達には自分のやりたいことをやってほしいという気持が強いです。

ただ、僕らが農業に取り組んでいる姿を通して、農業がかけがいのないものであることは感じてほしいと思います。農家の出身という年配の方にお会いする機会がありますが、総じて農業にマイナスのイメージを持っている方が多いような気がします。しかし、農業は本来将来性のある仕事だと思います。農業がなければ私達の食卓は成り立たず、大げさに言えば人間は生きていけないので。人間が生きていく限り農業はなくなりません。そういう意味で将来性はあると思うのです。

それが単なる理想論ではなく、現実的なものと感じられるよう、おいしい野菜をたくさん作れるよう頑張っていこうと思いました。